



美しいピアノ演奏、大型スクリーンに映し出される数々の名シーン。輝きホールが「のだめ」の世界に！ 生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会 ピアノ版

2020.9.20(日) 14:00開演(13:30開場) 輝きホール 全席指定

不朽の名作「のだめカンタービレ」に登場する名曲を原作の名シーンとともに堪能できる「生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会」。今回は「のだめカンタービレ」で取り上げられた珠玉のピアノ曲ばかりを集めた「のだめ音楽会」ピアノ版をお届けします！演奏は屈指の実力派ピアニスト高橋多佳子さんです。

出演：高橋多佳子 演奏予定曲：ショパン/幻想即興曲 嬰ハ短調 作品66

ガーシュウィン/ラプソディー・イン・ブルー 他

【前売】一般3,000円 メイト2,500円 U25(25歳以下)1,500円 ※ゆめプラメイトチケットは1会員2枚まで(セットチケット含む)

【当日】一般・メイト3,500円 U25(25歳以下)2,000円

チケット発売日 第1次(ゆめプラメイト限定) 6月20日(土)

※未就学児不可

第2次(一般・チケットびあ) 6月27日(土)

Pコード：172-570 ※チケットびあは前売一般のみ取り扱います

発売延期になりました
(再延期の可能性有)

2020年3月某日。文化フォーラム春日井にて、「のだめカンタービレの音楽会」プロデューサーの小松淳子さんにインタビューをしました。かすがい市民文化財団で企画・制作する仕事をされています。小松さんが、どのように全国規模の人気企画を作っていたのでしょうか。その秘密に迫ります！(聞き手：NPOたけとよ 青木さゆり)



(右 小松淳子さん)

Q.小松さんは、かすがい市民文化財団情報誌「フォーラムプレス」の中で「このマンガを読め!」というコーナーを連載するほどの漫画好きですね。「のだめ」は企画の前から読まれていたのですか？

以前は大分県の文化施設で企画の仕事をしていましたが、結構有名なオーケストラが毎年たくさん来ていました。私はクラシックの担当ではなかったけど、リハーサルの音を聴いたクラシック担当の人たちが「さすがウィーンフィルだね!」と話していても、何がすごいかわからなかったんです。

元々、いろんなことを大好きな漫画から学んできた経緯もあったので、こういうのがわかるクラシックの漫画はないのかなと思っていた時にたまたま雑誌の紹介記事で「のだめカンタービレ」が載っていて、これを読めばクラシックもちょっとわかるかもしれないと思って、読み始めたら面白かったんです。

そこから月日が経ち、今の春日井に勤めてまもなく、企画案を出す機会がありました。「のだめ」に出る曲を集めたコンサートがあったら、私、東京にでも見に行くのにな〜と以前から頭にあったのを思い出し、動き出しました。

Q.春日井にきて企画が動き出し、そこから公演までの間はどれくらいでしたか？

企画から公演までは半年ちょっとでした。企画を一から立ち上げたのは初めてでしたが、作者の二ノ宮知子先生と茂木大輔さん(NHK交響楽団の元首席オーボエ奏者。「のだめ音楽会」オーケストラ版の構成・指揮・解説を担っている。)の交流があること、茂木さんのマネージャーと私が知り合いだったことなど、良いタイミングも重なって話がすぐにまとまりました。「やりましょう!」となったその日のうちに、セントラル愛知交響楽団に電話して、スケジュールも空いていたので1日で企画が決まりました。

Q.漫画を舞台に映し出そうということも同時進行で考えていたのですか？

演奏と漫画と同時に楽しんでもらうことは考えていたけど、はじめはプログラムに、該当する漫画の場面を載せて、見ながら演奏を聴いてもらおうとしていました。でも、クラシックなので、音が重視されるじゃないですか。プログラムをめくる音さえも気になるし、パラパラめくりながら聴くっていうのはちょっとふさわしくないと思って、できれば目の前でオーケストラの演奏があって、その後ろにその該当のシーンが映し出されれば、オケも漫画も同時に目で見えるからと思い、公演の一月前からプロジェクターのテストを始めました。

最初は、演奏が始まったら漫画のコマを自動再生していたのだけど、今は楽譜を見ながら、この音になったらこのコマを出すという方法です。演奏と漫画がシンクロしてリンクする瞬間は、まるで映画のように感じられるのではないのでしょうか。

Q.新しい形のクラシックコンサートですね。お客様の反応はどうでしたか？

漫画に出てくるオーケストラのパフォーマンスを、実際に演奏者たちが再現してくれました。そしたら、クラシックって演奏途中で拍手が起こるといふのはありえないじゃないですか？でも、その瞬間、お客様が「わ〜!」と拍手をしてくれて。それでオーケストラの人達がノリノリになって。ほんとに漫画のワンシーンみたいになりました。

Q.小松さんは今でもずっと映像操作の担当として公演に携わっていますが、制作の人が現場でこういう仕事をするのは珍しいことですか？

コンサートの構成の意図を組みながら音楽に合わせて違和感がないように映像を作っていくことは、相当漫画を読み込んで、音楽を聴かないとできませんから。そこは『のだめ』への「愛」ですかね。「愛」で作っています。

Q.原作「のだめカンタービレ」の魅力はどこですか？

作者の二ノ宮先生が音楽を描くことに対して真剣で真摯な態度というか、その描写の数々が、音楽家からみても演奏家から見ても嘘がない。私たちが読んでいて、実際にクラシックの音楽を聴きながら、そのシーンを改めて読むと、「先生が描いたのはこのフレーズだな」

とわかることが時々ある。向き合い方が本当に真剣で嘘がないから、プロの人からも認められるというのが魅力だと思います。

あとはギャグとシリアスのバランスが絶妙で、ストーリー展開といい、老若男女、誰もが楽しんで多くの人に愛されている名作だなと思います。

Q.「のだめ音楽会」はオーケストラ版が先駆けでしたが、今回の「ピアノ版」のおすすめポイントを教えてください。

ピアノ版が始まって4年くらいになります。「のだめカンタービレ=のだめの物語」と考えると、主人公のだめちゃんはピアニストですから、ピアノ版の方が、より深くのだめの世界に浸れるのではと個人的には思います。のだめファンにはグッとくる構成なのではないかと。

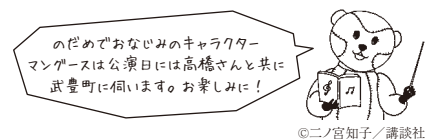
あと、今回のプログラムには、本来オーケストラで演奏されるベートーベンの「交響曲第3番」を、高橋さんがピアノ編曲して演奏されるのですが、ピアノってオーケストラ全てのパートを1人で出来ちゃう、すごく幅広い楽器なんだと気づきました。今までのピアノの概念を覆すような。漫画でも、オケの音がピアノから聞こえる!という表現がありますが、それがリアルに聞けて、ピアノという楽器の奥深さやすごさが強く伝わるコンサートなのではないかと思います。

Q.今回、コンサートで演奏される高橋多佳子さんの魅力はなんですか？

とてもかわいらしい方です。写真だと、キリッとしていらっしゃるお姉さんという印象ですが、実際会って、誰にでも優しくフレンドリーで楽しい方ですね。だけど、演奏はものすごく力強いし、さすがの一言。

『のだめ』に対する愛も高橋さんはとても深い方です。武豊町のコンサートでも、曲の話はもちろん、ちゃんと解説付きで演奏して下さるので、『のだめ』をまったく知らない人も楽しめるコンサートです。

あとはショパン!ショパン国際ピアノコンクールで入賞されている方なので、入賞者の奏でるショパンは必聴です!



©二ノ宮知子 / 講談社

■「のだめカンタービレ」とは

ピアノ専攻で音楽大学に通う「のだめ」こと野田恵が、様々な仲間や師、ライバルと出会いながらピアニストとして成長していく物語。原作コミックの人気に加え、実写ドラマ、映画、アニメによって幅広いファンを獲得した人気の音楽漫画。

■「のだめ音楽会」とは

漫画の世界に登場する楽曲を、生の演奏で原作の名シーンとともに堪能できる形式のコンサート。人気を呼び全国各地で開催され、オーケストラ版は2019年6月には100回記念公演を行ったばかり。